



なぜ同性介助は必要なの？



A. 尊厳の保持が大きな理由のひとつなの。

介助は身体的な接触を伴う場合が多いわよね。
身体接触を含む介助は、[性的被害](#)を受けるリスクとも隣り合わせなの。
大きな理由のひとつは、これ。

これには年齢や性別とは関係がなくて、低年齢の男の子だから女性の指導員がトイレでのお世話をしても問題ない、ということにはならないのよ。
逆のパターンだと、嫌がる保護者が多いわよね。
ただ、機械的に割り振りすればいいというものでもないの。

事業所内で同性による介助の原則が徹底されていて、なおかつ介助を受ける人が、安心できる人からの介助を[自分で選べる](#)、ということも大切に考えるべきこと！
でも、事業所によっては男子の利用者がほとんどなのに、職員は女性ばかり、ということもあるわ。

・利用している女子(小学校5年生)は恥ずかしいので同性の介助者を希望しているけれど、男性職員しかいない。
でも排泄はしなくてははいけない。
・利用している男子(小学校5年生)は恥ずかしいので同性の介助者を希望しているけれど、女性職員しかいない。
でも排泄はしなくてははいけない。
さて、がんばらなければ、改善しなければいけないのは、果たしてどちらなのでしょう？

重度の障がいを持つ子どもに対しても言えることで、介助者側の ” 理解できてないだろうから ” という勝手な気持ちで、異性介助になってしまっていることはないかしら。
重度の障害を持つ子どもも、同じように恥ずかしいと思う気持ちもあれば、[自分で選ぶ](#)という権利もあるはず。
さて、改善していかなければいけないのは、どちらなのでしょう？

これは[人員の配置](#)がどうの、職員の男女の比率がどうのという問題ではなくて、[人としての尊厳の保持](#)、という問題になるのですね。
人は人として、その尊厳を尊重されるべきものです。
そこに年齢や男女、認知の度合いなど、他の要因が入り込んではいけません。
「そんなの無理だ」という声が聞こえて来そうだけど、[放課後等デイサービス](#)という子どもの尊厳を守るサービスには必要なこと、なの。

「放課後等デイサービスガイドライン」の中に、各事業所の実情や個々の子どもの状況に応じて普段から創意工夫を図り、提供する支援の質の向上に努めなければならない、とあります。
[子どもたちの最善の利益](#)のために、と考えれば必要な努力なのではないかしら。

[《MENU》](#)

[《日数を増やす是非、は？》](#)

[《公費\(税金\)は使われているの？》](#)

2022-09-26 掲載